

【樹木・草花の部屋】

クレマチス・アルピナ（キンポウゲ科センニンソウ属 Clematis alpina）

和名；クレマチス・アルピナ **別名**； **英名**；Alpine virgin's bower

キンポウゲ目 蔓性多年草

原産地；ヨーロッパ **花言葉**；美しい、高潔、心の美 **花の色**；淡紫色



← 写真－1 クレマチス・アルピナの花

撮影日：2013年7月15日

撮影場所：ミズリーナ湖(Lago di Misurina 北イタリア)にて

撮影者：Mさん

ドロミテ渓谷の東、トレチメ(2999m)の山裾にある湖、ミズリーナ湖の湖畔を一周散策中に見かけました。樹木の片隅に、ヒっそりと咲いていました。クレマチス……。日本では比較的大きな花をさかせますが……。ここでは日本で見かける花の1/2ほど……。可憐でした。

写真－2 クレマチス・アルピナの葉



撮影日：2013年7月15日

撮影場所：ミズリーナ湖(北イタリア)にて

撮影者：Mさん

主にヨーロッパに分布し、亜高山帯の岩礫地や林内に生え、長さは1～4メートルになります。葉は2回3出複葉で、披針形の小葉には鋸歯があります。春から夏にかけて、4個の花弁状の萼片をもつベル形の花を咲かせます。萼片は淡青紫色で、白い仮雄蕊があります。瘦果には羽状毛が生えます。

アルピナはアトラゲネ系に属し、その仲間には深山ハンショウヅルやマクロペタラ（菊咲ハンショウヅル）、ハンショウヅル があるそうです。高山性の寒地向きの系統で、暑さや蒸れには要注意。前年枝の節々に多くの花



【樹木・草花の部屋】

をつけ、伸びた新梢にも花をつけます。

一重の半釣鐘形や、八重咲き（菊咲き）で、横向きからやや下向きに開花、和紙のような柔らかな花が特徴的です。洋種山野草のような味わいがあります。

無剪定の場合は一季咲きですが、弱剪定をすれば、弱い四季咲き性となるそうです。

クレマチスの花弁状の萼片の数……。アルピナは4枚、ですが、日本で多くみられるクレマチスは……。？5～6枚、もっと多い品種も見かけます。4枚は日本では珍しいのでは？

<管理方法>

◆暑さや蒸れに注意（基本的に高山性の寒冷地向きの系統ですから）

根が細いので、過湿と乾燥に注意します。表面が乾いたら水をたっぷりやります。水はけのよい用土を使いましょう。夏は、半日陰で管理します。

◆消毒 赤さび病、うどんこ病、カイガラムシ等の防除をします。

◆花後の剪定

開花後、すぐに花がらを取り、花から2～3節くらい下で弱剪定すると、剪定後60～80日で二番花を楽しめます。

花が咲かない枝も同様に、先端の2節を弱剪定します。新梢が充実すると花芽がつくので、新梢を強く剪定しないこと。

◆春先の剪定

基本的に必要ありません。するとしたら、枯れ枝や花芽のない枝を取り除く程度の、弱剪定を行います。